

今の古に王権現の事よや多神波社の下に
置て秋田川ハ城の面より向ハ河を郡
意屋村なり添船あり添河ハ城下の五村
なり要別といふ所今ハな——欠留れての後
名も失ひ傳もよや但三代実録えき二年
の条ハ倭地者添河要別知川三村とあれ
ハその後別ハ名を改てよや知川といふも
今ハな——要といふハ徹系抄曰陸奥者上
古以来爲邊要爲其国境廣キカ 元明天皇
和五年九月分置出羽国云々

三代実録三十三卷元慶二年三月二十九
日乙丑晦出羽守藤原朝臣興世飛驒上奏
夷倭叛乱今月十五日焼損秋田城并郡院
至舍城邊民家仍旦以鎮兵防守旦徵發諸
郡軍 勅符曰得奏將既知夷虜悖逆攻燒
城邑大羊狂心暴惡爲性不加追討何有懲
人頭書曰本人作反事須量發精兵扼其喉咽但
時在農要人事耕種若多動衆恐妨民務夫
上兵伐謀良將不戰巧設方畧以安邊民云
按古に守の居城は府よりありて例を